

国際会議報告
INTERNATIONAL
MEETINGS

国際会議報告

第6回国際交通行動会議 (ICTB)

森川高行*

Takayuki MORIKAWA

第6回国際交通行動会議 (International Conference on Travel Behaviour) が1991年6月22日から3日間カナダのケベック市郊外のホテル・ボンナンタンで開催された。

この会議は、IATB (International Association for Travel Behaviour) によってほぼ3年に1回世界各地の持ち回りで開かれている。1970年代に非集計離散型選択モデルが交通需要分析に初めて適用されたところから本会議が開催されており、交通行動分析における常に最も先進 (State of the Art) の理論とその応用を発表しそれを徹底的に論じ合う、という伝統を持っている。これまでに行われた本会議の形式は、専門分野ごとのグループに分かれて、最新の理論的發展を発表したいいくつかの招待論文を議論の足がかりとして数日間議論を尽くすワークショップ形式であった。このため70年代、80年代の本会議の Proceedings は、この分野の最高のテキストとして非常に好評であった。

今回の会議では、IATBを通じて論文の公募をしたところ非常に多くの申込があり、要旨によって審査し、最終のプログラムに掲載された発表件数は100件にも上った。このため今回の会議では、6つの発表会場に分かれた通常の学会形式 (Parallel Specialized Sessions) によって行われた。これに加え、毎日約1時間半の全体セッション (Plenary Session) が開かれ、招待講演とそれに対する質疑応答が行われた。招待講演は、「交通行動に関して、この25年間に我々は何を学んだか?」という共通のテーマの下に、Manitoba大学のO.Lang教授 (元カナダ運輸大臣) は政策の面から、Minnesota大学のH.Mohring教授からは便益評価について、MITのM.Ben-Akiva教授からはモデリングの点から、それぞれ得意の分野の講演が行われた。

6つの Parallel Specialized Sessions のそれぞれの総合課題と主な発表テーマは以下のようなものである (括弧内は発表数)。

- 1) 交通の変化パターン
ライフ・スタイルと社会属性 (4), 時間配分 (2),

公共交通機関の需給分析 (3), 動的交通行動分析 (3), 交通の変化パターン (6)

- 2) 交通行動者の反応と行動

SP分析 (7), 複数日の活動分析 (3), 運転者への情報提供 (8)

- 3) 緊急の問題

エネルギー・環境・通信・カープーリング (8), 長距離交通と観光交通 (5), 自動車利用の変化 (4)

- 4) 安全性とリスク

事故リスクの知覚 (5), 事故防止策と行動 (2), 事故リスクの評価 (6), 経済政策とプライシング (5)

- 5) モデルの適用

調査方法 (1), 経路選択とネットワーク (5), 居住者のモビリティ (3), ネットワークの社会経済評価 (2), 選択モデル (5)

- 6) モデルの方法論

交通機関選択モデルの発展 (5), 機関選択と自動車保有のモデル化 (3), 自動車保有モデル (3), プロビットモデル (2), 非集計分析と集計量予測 (3), モデルの空間的集計化 (2)

以上94件の報告の中でとくに目立ったテーマは、まず混雑状況の情報提供に対する運転車の行動分析である。これは最近の交通工学・交通計画において最も注目を集めているテーマの1つであり、多くの報告と聴衆を集めていた。そのほか、自動車の保有行動、ロード・プライシング、環境、エネルギー問題など自動車利用に関する分析が多かった。しかも、これまでのような単なる手段選択や経路選択の分析ではなく、都市に溢れる自動車と環境・エネルギーなどの問題を革新的な政策によって制御・管理する時代を迎えており、このような政策に対して利用者がどのような反応をするかを分析する研究が多くなっている。これには、路車間情報提供や在宅勤務など通信・情報技術の進歩が大きな役割を果たしており、世界中で叫ばれているテクノロジーの革新と環境問題が、交通行動分析の学問分野にもかなり反映されているようである。

方法的には、SPデータを用いた分析が目立った。

*名古屋大学助教授 工学部土木工学科
(〒464-01 名古屋市千種区不老町)

表-1 発表論文の国別分布

地域	国	報告数
北米	アメリカ	25
	カナダ	15
	小計	40
ヨーロッパ	フランス	12
	イギリス	9
	オランダ	7
	ノルウェイ	4
	ギリシャ	4
	その他	6
	小計	42
その他の地域	インド	3
	日本	2
	チリ	2
	その他	5
	小計	12
合計		94

上記のテーマ別論文数で「SP分析」と分類された報告以外にも、例えば情報提供に対する運転者の行動分析のほとんどの論文、ロード・プライシングや新しいタイプの自動車利用課税などの分析にSPデータを用いているので、SP分析を含む報告はかなりの数になると思われる。また、1980年代から盛んになっている交通・活動関連分析の一分野として、複数日の交通行動に関する研

究も目立った。

ファースト・オーサーの国別分類は、表-1に示したように、アメリカ以外では開催地のカナダとともにヨーロッパとくにフランスからの投稿が目立った。事前に論文を学会に送った報告については、参加者に配付された論文集に掲載され、その他の報告については発表者が発表会場でコピーを配付したり、口頭発表のみを行ったりした。今回の会議で配付された論文集は、正式なProceedingsではなく、著作権を有しないPreprintsであり、後にIATBが論文を選択して正式なProceedingsを出版する予定である。

今回の会議に登録を行った参加者数は過去最高の150名にも上り、カナダ運輸省およびケベック州運輸省主催の昼食会、カクテルパーティ、ディナーパーティ、セント・ローレンス川のクルージングなどのソーシャル・イベントも盛大にかつ国際色豊かに行われた。

交通行動にかかわる研究者と実務者の増大にともなうて、今回からこの会議の性格がワークショップ形式から通常の論文発表形式に変わったことに対して賛否両論があり、今後の会議の方針はIATBの委員会で近く決定されると思われる。また、この会議の存在は我が国の研究者や実務者の間では意外と知られておらず、今回も我が国からの参加者は4名にとどまった。しかし、IATBは次回または次々回の開催地として日本を候補に上げており、我が国の研究者・実務者の今後の活発な参加を期待したい。

(1991.9.11 受付)